

牧羊ひろば



那覇平安教会 教会学校

●はじめに

那覇平安教会是那覇市古島にあります。古島は周りにマンションやビルが立ち並ぶ都会です。子どもも多く、塾や学校もあります。ただ教会学校は、信徒の子どもたち3人がレギュラーメンバーで、時々もう2、3人が加わるほどの小さな働きです。それでも若い夫婦の方々に赤ちゃんが与えられ、小さいながらも教会学校を続けていく事が出来そうなのは神様の憐れみです。私が那覇に赴任して2年ほどの教会学校の働きを中心にご報告いたします。

●月一回の親子合同礼拝

毎月初めの聖日は親子合同礼拝をもっています。10時半からの礼拝に赤ちゃんから高齢の信徒にいたるまでみんなで参加します。賛美は子ども賛美を、説教は年度の教会標語の基ついたテーマ説教となっています。



大人も子ども一緒にお祈り

二〇二〇年度は「主の祈りを自分の祈りとする」というテーマで、主の祈りを祈れるようになることを目標にしました。「主の祈りチャレンジ」と称して、3回まで「お助け」を使えることにして、祈れた子には豪華？商品をプレゼントしました。「祈りがわからない」という人もいましたが、おおむね主の祈りは覚えてくれたようで、

祈れるようになったことが嬉しいです。

二〇二一年度は「ひとりひとりが神の家族」というテーマにしました。沖縄は家族関係の絆がとて強く、沖縄県内であれば子ども、孫が実家に毎週のように遊びにいき、孫の面倒をおじい、おばあ（祖父、祖母）がみるのは、ほぼ当たり前という文化があります。その文化の中で「じゃあ神の家族とはどんな意味だろう」家族みんなで分かち合えるようにしたい思いから取り組みました。説教内容は、小学校高学年の子にもわかるようにパワーポイントを用いながら説教しています。子どもたちに感想を聞いても「普通」というコメントを普通のテンションでしか返してくれないので、こちらは不安がありました。だが、どうやら今の子どもたちは「普通」は「まずまず良い」という意味で使うらしいので安心しました。「普通」に届いているようです。本当は「驚くばかりの恵みだよ」といいたいところですが、慌てずコツコツと恵みを積み上げていければと思います。コロナ禍で許されている範囲で、一緒に遊んだり、ご飯を食べに行ったり、家族ぐるみの交わりができ感謝でした。ミニウサギのラビちゃんも子どもたちの交わりにだいぶ貢献してくれま

した。（写真参照）

来年度二〇二二年度は教会標語を「ひとりひとりのチョイス！」としました。聖句は「ただし、私と私の家は主に仕える。」（ヨシユア24・15）です。家族としても、個人としても主に仕える選択、チョイスができるように願っています。お家時間においても、ゲームをしているときでも、友達と遊んでいるときも、「チョイス！あなたの選択！」テーマソングに合わせて、チョイスができるように願っています。ユーチューブで「賛美 チョイス」と検索すれば聞けます。



ラビちゃんと子ども

●毎週の教会学校

教会学校は毎週日曜日9時15分からです。主に順子先生がメッセージをしています。パワーポイントやYouTubeで配信されている賛美を用いながら、飽きさせないよう話しながらしています。しばらくコロナ対策のため、YouTubeでの配信となりました。子ども



教会学校の子どもたち



母子室での様子

たちに話しかけながらメッセージしていた順子先生はとてもやりづらいいっていました。大人もオンラインだけでは物足りなさを感じることはありますが、子どもの場合は集中して聞けなかったり、時間どおりに集まれなかったりします。オンラインでもせめて顔の見えるズームやラインでの教会学校にするか、今検討中です。

クリスマス会などは感染対策をしつつ、赤ちゃんなども参加できる機会としてリアルで行いました。この集会を機に、普段の教会学校にも参加できるように、また教会学校の奉仕者が与えられるように願っています。

●近所の子どもとの関わり

近所のI君は小学生の時から教会に遊びに来ています。今は中学3年生で、高校に無事合格が決まりました。「俺受かったよ!」とメールをくれたので嬉しく思いました。友達を連れてきたり、一人できたりします。ご飯やおやつを食べゴロゴロ寝ころびながら母子室で遊んでから、最後に聖書のお話を聞く時間を持っています。礼拝に来てくれるようになり、今では礼拝に出られないと「ごめん」と謝ってくれるようになりました。本人なりに聖日礼拝が大事であること、イエス様を信じる信仰が大事なことをわかっているようです。お母さんから大人になるまでは洗礼を受けないでと言われているようですが、もう自分で色々決められるようになってきていますので、洗礼を受ける日も近いと個人的には考えています。I君が教会についてコメントすることがあります。



リップスティックで子どもと遊ぶ

「もっと(教会が)ウェルカムな感じがいいと思うよ」とか「説教の中で」先生の(個人の)話をもっとして」とか他愛もない会話です。ただ私自身が怖い顔をして教会の敷居をあげないように笑顔でいようと、か、私自身の話を説教に多めにしようとか気づきが与えられました。

子どもたちの声は、言葉足らずであったり、論理的で



クリスマスも半袖です

なかったり、馬鹿らしく思えることがあります。でもその中に、神様からの語りかけが確かにあるように思えます。イエス様が幼子を招かれた（マタイ18章参照）のも、幼子と共に過ごすことを私たちに求めておられるように思います。そのためにできることは、私たちができる限り寄り添い一緒に時間を過ごしてあげられるようにと思います。子どもたちには何もしゃべらなくても、ただ一緒にいて遊んでくれたその時間が居場所になっているように思います。私たち大人はいかに効率よく充実した時間を過ごすかを考えます。また短い時間にスケジュール

を詰め込むことで満足します。それが大人の時間軸です。でも子どもの時間軸で生きるようにイエス様が招かれる時があります。その時は素直な心で子どもの時間軸で過ごすことができるように、私自身も目指していきたいです。

（石川剛士）